

ないている公園

千葉県 五本松小学校

4年 高山 慧一

「あ、公園が水びたし。」

友達が言いました。ふとふり返ってみると、家の前の公園が水でびしょびしょになっていました。

「ああ、きっと、さっきまで公園で遊んでいた女の子たちが、公園の水道で水遊びをしていたからこんなことになってしまったんだろうな。」

と思いました。

「あれどうする？」

「これじゃあ次に公園で遊ぶ人が困っちゃうよね。」

「土をかぶせて元通りにする。」

と話し合った結果、ぼくたちは、水でぐしゃぐしゃになった地面を、土でうめ直すことにしました。

うめ始めてから時間がたつにつれ、手やくつがどろだらけになり、みんなつかれてしまい、面倒くさくなってしまうました。

「あ、そろそろ帰らなきゃ。」

一人の友達が帰る時間になり、家にもどってしまいました。

「二人で残りの水たまりを元通りにできるかな。」

とほうにくれながらもひたすら土を運んでいると、となりの家の女の子が公園にスコップを持ってきてくれ、いっしょに手伝ってくれました。

せっせと土を運んでいると、ぼくはふと思い出しました。大雨の日におじいさんが、ずぶぬれになりながらも、草むしりをして公園をきれいにしてくれたことを。僕は、

「こんなところであきらめちゃダメだ。」

と思い、汗をだらだらかきながら、最後の力をふりしぼりました。ぼくが、

「あとちょっとだ。」と言うと、友達も、

「最後までがんばろう。あともう少しだよ。」と言いました。

6時のチャイムが鳴って少ししたところで、ぼくが、

「よし、終わった。」

と大きな声で言いました。その日は友達と別れて帰りました。

次の日、家の前でサッカーの練習をしていると、昨日公園で遊んでいた女の子が、

「あれ、公園がきれいになっている。」

と言っていたので、ぼくと友達で、土をかけて地面をキレイにしたことを伝えると、

「ごめんね、もうこんなことしない。ありがとう。」

と言われました。ぼくは、なんだかいい気持ちになりました。

ぼくはこれからも、みんなで使う物や場所が汚れていたり、荒れていたときには、見て見ぬふりをせず、自分の力でできる限り元通りにしたいです。